

人文社会学部

国際法政学科・人間社会学科・琉球アジア文化学科

2018
Faculty of Humanities and Social Sciences

つなぐ 未来へ つなぐ ココから



琉球大学

人文社会系の専門的知と学際的知を基盤に、
多様な社会や文化と共生しつつ、
沖縄を始めとする地域社会の持続的発展に
貢献できる人材を養成します。



国際法政学科 p3

人間社会学科 p5

琉球アジア文化学科 p7

アドミッション・ポリシー(求める学生像)

知識・技能 大学における人文社会分野の学びの土台となる高校での学習内容に関する基礎的な力を有する人

思考力・判断力・表現力 答えが一つに定まらない問題に自ら解を見出していく基礎的な力を有する人

主体性・協働性 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度・スキルを有する人

目的意識 人文社会学部の学問分野に対する強い関心と学びの意欲を有する人

学科・プログラム別募集人員

人文社会学部は、国際法政学科、人間社会学科、琉球アジア文化学科の3学科のもと、法学プログラム、政治・国際関係学プログラム、哲学・教育学プログラム、心理学プログラム、社会学プログラム、歴史・民俗学プログラム、言語学プログラム、文学プログラムの8プログラムで構成されています。

学 科	プロ グラム	入学定員	一般入試		特別入試		私費 外国人
			前期日程	後期日程	推薦入試II	帰国子女	
国際法政学科	法学プログラム	80名	54名	14名	12名	若干名	若干名
	政治・国際関係学プログラム						
人間社会学科	哲学・教育学プログラム	80名	41名	18名	5名	若干名	若干名
	心理学プログラム				8名		
	社会学プログラム				8名		
琉球アジア 文化学科	歴史・民俗学プログラム	40名	25名	9名	6名	若干名	若干名
	言語学プログラム						
	文学プログラム						

※人間社会学科の推薦入試IIは、各プログラム別で募集を行います。

※大学入試センター試験及び個別学力検査等の教科・科目等、より詳細な情報は、『入学者選抜要項』に記載がありますので、受験される方は必ずご確認ください。

各プログラムへの配属について

各学科単位で募集を行い、1年次は合格した学科に所属します。

1年次後学期を終了した時点で、本人の希望と1年次の成績等に基づき右記の8つの各プログラムに配属を決定します。

(全ての学生は、2年次前学期から各プログラムに配属されます。)

※右記人数は、受入人数の目安であり、各プログラムへの配属数は最終的に変動する場合があります。

また、学生本人の成績やプログラムの受入人数等により、全学生の希望どおりの配属とならない可能性があります。

学 科	専攻課程	受入人数
国際法政学科	法学プログラム	40名
	政治・国際関係学プログラム	40名
人間社会学科	哲学・教育学プログラム	18名
	心理学プログラム	30名
琉球アジア 文化学科	社会学プログラム	32名
	歴史・民俗学プログラム	14名
	言語学プログラム	13名
	文学プログラム	13名

教育カリキュラムの構成

		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業（進学・就職）	
専門教育科目	共通教育科目	教養領域（人文系科目、社会系科目、自然系科目、健康運動系科目） 総合領域（総合科目、琉大特色・地域創生科目、キャリア関係科目） 基幹領域（情報関係科目、外国語科目）					
		平和共生・沖縄理解科目群 ※上記から科目指定					
学部共通科目	学部共通基盤科目	基礎演習Ⅰ （大学生） ▶ （基礎力）		基礎演習Ⅱ （最適解導出） ▶ （育成）	基礎演習Ⅲ （平和共生） ▶ （沖縄理解）		
		平和共生・沖縄理解基盤科目		キャリア形成科目			
		国際法政学科 法学プログラム 政治・国際関係学プログラム		学科共通科目	学科基盤科目▶学科発展科目		
人間社会学科 哲学・教育学プログラム 心理学プログラム 社会学プログラム	プログラム専門科目	人間社会学科 哲学・教育学プログラム 心理学プログラム 社会学プログラム		学科共通科目	基礎科目▶発展科目		
		コア基盤科目▶コア発展科目▶発展科目		プログラム専門科目	学科基盤科目▶学科発展科目		
琉球アジア文化学科 歴史・民俗学プログラム 文学プログラム 言語学プログラム	学科共通科目	琉球アジア文化学科 歴史・民俗学プログラム 文学プログラム 言語学プログラム		学科共通科目	コア基盤科目▶コア発展科目▶発展科目		
		コア基盤科目▶コア発展科目▶発展科目		プログラム専門科目	学科基盤科目▶学科発展科目		

1 「共通教育科目」の履修

1～2年次を中心に、全学共通の共通教育科目を履修することによって、文系・理系の知にバランスよく触れ、外国語科目の履修によって国際性を身につけます。人文社会学部の共通教育における特徴は、「平和共生・沖縄理解」に関する科目を指定し、6単位以上を修得することです。これにより、平和共生・沖縄理解に関する文系・理系の知を修得します。

2 「学部共通科目」の履修

学部共通科目のうち「学部共通基盤科目」は、「基礎演習Ⅰ（大学生基礎力）」が1年次前期の配当で、大学生としての学びの基礎を修得します。「基礎演習Ⅱ（最適解導出力育成）」では課題解決における最適解の導出についてその基礎を学修し、次に「基礎演習Ⅲ（平和共生・沖縄理解）」を履修し沖縄と平和、共生について学修します。いずれも必修科目で、1年次前期から2年後期の間に配当となります。

「平和共生・沖縄理解」に関しては、学部の共通科目としても「平和共生・沖縄理解基盤科目」を設定し、各プログラムの学問分野と関連付けながら、平和共生・沖縄理解について基盤となる知を修得します。

3 「学科共通科目」の履修

学科共通科目は、学科基盤科目と学科発展科目とからなります。これらの科目を順次履修することによって、学科の共通の基盤となる知を身につけ、さらにその知を発展させます。

4 履修プログラムの決定

以上の全学及び学部、学科に共通する科目を履修していく中で、幅広い領域の知と専門分野の知の基礎を学修し、同時に地域・国際的な問題に対する「最適解」の導出法の基礎を学修して、2年次進級時に指導教員と相談しながら、履修プログラムを決定します。

5 「プログラム専門科目」の履修

プログラム専門科目は「プログラムコア基盤科目」、「プログラムコア発展科目」及び「プログラム発展科目」です。（※国際法政学科は「プログラム基盤科目」と「プログラム発展科目」）。これらの科目を順次履修することによって、学部共通科目や学科共通科目で培った知を基に、演習形式におけるアクティブラーニングによって専門的な学びを学年が進むとともに深め、卒業論文を完成させます（法学プログラムは選択）。

国際法政学科

学科概要

1. 学科の教育理念・目的

国際法政学科は、法学・政治学・国際関係学に関する専門的知識を学び、豊かな学際的知を形成しながら、多様な社会との共生のあり方や持続的発展のための政策提言・発信力、及び平和共生社会を構築できる実践力を持つ人材の輩出を目指しています。そのため、当学科は、法学プログラムと政治・国際関係学プログラムから構成され、法学・政治学・国際関係学をバランスよく学べるカリキュラムを設けています。さらに、弁護士など法曹職を目指す学生向けには、法科大学院とのブリッジ・プログラムを開講する予定です。

2. 求める学生像

法学・政治学・国際関係学などを中心とする社会科学分野の学問を土台として、現代社会における諸問題を総合的かつ体系的にとらえて、問題の本質を見極め、その解決策などを研究していきます。そのため、当学科は、①人間社会や社会科学への深い関心、②柔軟かつ総合的な思考力、③主体的に学ぶ意欲を持った人材を求めていきます。

3. 育成する人材像

法学・政治学・国際関係学の学びを通して、リーガル・マインドを持ちつつ政治や行政、国際関係に精通する人材を養成し、地方・国家公務員、マスコミ、法曹、国際公務員、企業の国際職など高度専門職につける人材を輩出することを目指します。

留学について

琉球大学と提携している世界中の各大学へと交換留学することができます。この制度を利用して、これまで、ハワイ大学(米国)、延世大学(韓国)、福建師範大学(中国)、国立台湾大学などに留



海外研修(ベトナム)



海外研修(韓国ソウル)

学しています。また、学科独自の授業として、短期の海外研修(ハワイ、ソウル、東南アジア)科目も展開しています。

主要科目

憲法・民法・刑法・刑事手続きと人権・民事手続法・国際法・行政法・刑事政策・政治思想史・政治過程論・行政学・地方自治論・公共政策学・国際政治学・日本政治外交史・国際関係史・国際社会学・比較政治学

想定する進路(※過去の実績に基づき抜粋)

【国家・地方公務員】

沖縄県庁、内閣府、国税庁、入国管理局、市役所・村役場、沖縄県警、那覇地方裁判所、琉球大学(事務)、高等学校教諭など

【マスコミ】

NHK、共同通信、琉球新報、沖縄タイムス、琉球放送、沖縄テレビ、琉球朝日放送、朝日新聞など

【民間企業】

琉球銀行、沖縄銀行、沖縄開発金融公庫、大同火災海上保険、沖縄電力、JAL、JTA、ANA、サンエー、日本郵便、JTB沖縄、サンエー、沖縄ゼロックスなど

【大学院進学】

琉球大学、東京大学、京都大学、大阪大学、早稲田大学、一橋大、東北大、ハワイ大学など

取得可能な資格・免許

高等学教諭第1種免許状(公民)



海外研修(米国ハワイ)



1年次研修(県議会)

法学プログラム

◆教員一覧

樋口 一彦	教 授	国際法
徳田 博人	教 授	憲法・行政法
森川 恭剛	教 授	刑法
高田 清恵	教 授	社会保障法
三浦 毅	准教授	民事手続法
戸谷 義治	准教授	労働法
菅谷 元彦	講 師	民法
一葉 幸	講 師	民法



授業風景

◆徳田博人先生のメッセージ



法は、私たちの日常生活に深く関わっています。日々のニュースでは、尖閣などの問題、自衛隊の海外派遣の問題、子供の貧困や生活困窮問題、オレオレ詐欺、えん罪、ブラック企業や長時間労働問題、などが報道されています。法律学は、このような社会で生じる様々な問題をルール

(法)を使って解決し、予防するため必要な考え方を学びます。その際、紛争の当事者が納得するだけでなく、その解決方法が社会にとっても実りあるものにするために、先人たちが考えた知恵（判例、学説、法の歴史など）を理解し、考える力を養う、そういう学問分野です。法や社会に対する好奇心をもち、主体性をもって大学で学び、その知識や経験を仕事や人生に活かし、よりよい社会を創って欲しいと願っています。

◆主なゼミでの学習テーマ

- 債権法改正について
- 債権者代位権
- 証明責任の分配の基準
- 退職をめぐる問題
- 職場におけるいじめ
- 憲法と生活—ニュースから考える憲法
- 戦後沖縄の刑事法制
- 辺野古裁判と地方自治
- 行政処分の職権取消と撤回
- 医療保障と医療制度改革
- 生活保護をめぐる問題
- 社会科学総合研究
- 民事法総合研究
- 不法行為法制



授業風景

政治・国際関係学プログラム

◆教員一覧

我部 政明	教 授	国際政治、日米関係、安全保障
星野 英一	教 授	アジア太平洋地域の開発援助
金 成浩	教 授	国際関係史、平和研究、ロシアを含む東アジア国際関係研究
阿部 小涼	教 授	南北アメリカ地域研究
波平 恒男	教 授	西洋の政治思想、沖縄の政治
塩出 浩之	教 授	日本の政治・外交の歴史
柳 至	准教授	行政活動と地方政治に関する研究
久保 康明	准教授	現代政治分析・公共政策
二宮 元	准教授	比較政治学、福祉国家論

◆我部政明先生のメッセージ



政治・国際関係学プログラムへようこそ。政治学と国際関係学の二つを同時に学びます。政治学とは、人間集団がつくり出した権力と権威に基づく政府・国家と市民との関わりを軸に、政府と市場、市民と市場などの関係を研究する学問です。国際関係学とは、二つ以上の政府・国家同士の関係、個人や企業と他の政府・国家、個人や民間企業と国際的な市場などとの関係、あるいは日本以外の政府・国家と市民との関わりを対象とする学問です。これらの関係に人間の意志が反映されて、その集団の意志や行動が生まれます。その人間が、あなたであり、私たちなのです。

◆主な卒業論文テーマ

- 参議院選挙沖縄選挙区から見る政府与党への投票要因
- 医療事故調査制度創設の政策過程分析：従来の医療政策過程との比較から
- 沖縄の県内格差：レント理論による格差構造の分析
- 尖閣諸島問題をめぐる日中関係：「費用便益論」と「パワー・シフト論」の検証
- 「釜ヶ先」の歴史と経験：その成立から大阪万博、そして西成特区構想まで
- 日本統治時代に対する台湾人の評価：ナショナル・アイデンティティの観点から



授業風景

学科概要

1. 学科の教育理念・目的

【学科共通】 現代は、社会や自然の急激な変化や価値観の多様化の中で、人間をとりまく諸問題がいっそう複雑になっています。こうしたなかで、経済や科学技術、環境問題などに関する地球規模での人類の連帯の必要性とともに、地域・民族・文化・思想・伝統の多様性の認識が重要なテーマとなってきています。そして人間の心のあり方や人間らしい生き方、人間集団としての社会のあり方そのものが大きく問われています。人間社会学科では、人間を中心に据えながら、人類が直面する問題を社会・文化・地域・環境といった多角的な視点から探求し、幅広い知識と寛容の精神を持って時代の創造者になるような人材の育成を目指しています。

【哲学・教育学プログラム】 哲学・教育学プログラムには哲学と教育学のコースがあります。哲学コースでは、生と死、人間・世界、知、環境、生命、科学技術等について、文献読解や討論を通じて原理的・本質的な探究を行い、同時に現実との具体的な関わりについても研究します。教育学コースでは、専任教員の専門である教育社会学を中心につつも、教育学部などの教育学関係の教員の協力も得ながら、多様な視点から教育に関わる諸問題にアプローチしていきます。

【心理学プログラム】 心理学プログラムでは、心理学の基礎的分野から応用的分野まで幅広くカリキュラムが提供されており、包括的に心理学を理解してもらうことができます。また実験などを体験的に学ぶことで、科学的な方法論やデータ分析、さらには報告の仕方まで、心理学のみならず社会で活用できる能力

も身につけることができます。

【社会学プログラム】 社会学プログラムでは、社会学・福祉学・マスコミ学の3つのコースを軸としながら、人間と社会・地域との関係や問題を探っています。少人数教育のメリットを活かし、社会調査実習、福祉施設や相談機関での実習（社会福祉士資格関連）、新聞やTV番組制作実習などの実習科目に力を入れているのが特徴です。また、アジアからの留学生を多く受け入れ、国際交流を活発に行ってています。平和問題や多文化共生など、沖縄ならではのテーマを十分に学習できる点も、社会学プログラムの魅力のひとつです。

2. 求める学生像

思想・教育・心・社会に強い関心を持ち、多面的な観点から物事を考察し自分なりの意見をまとめることができ、市民社会の発展や生活問題の解決にも貢献できる人を求めています。

3. 育成する人材像

人間科学に関する専門的な知と幅広い学際的知を基に、個人の尊厳を保ち、誰もが自由・公平に、また安心・安全に生きられる社会を形成できる人材を養成します。

留学について

琉球大学と協定を提携している世界中の各大学へと留学することが可能で、この制度を利用して、これまで（旧・法文学部時代）に、デュッセルドルフ大学、ハワイ大学ヒロ校、コンケン大学（タイ）などで学んだ学生がいます。また、文部科学省と民間企業とで運営する「トビタテ！留学JAPAN」を利用した学生もいます。



合同ゼミの風景

◆教員一覧

- | | |
|-----------|----------------------|
| 長谷川 裕 教 授 | 教育社会学(現代日本の教育と社会の関係) |
| 寺石 悅章 教 授 | 哲学、人間学、宗教思想、東洋思想 |
| 久高 将晃 准教授 | 現代ドイツ哲学、倫理学 |
| 吉満 昭宏 准教授 | 現代英米哲学、非古典論理学 |

◆寺石先生からのメッセージ



「みなさんにはテツガクって、どんなものだと思っていましたか。「わかりきっていることを、わざと難しく表現すること」なんて悪口を言う人もいるようです。私はそれを否定したいのですが、本屋や図書館に並ぶ哲学の本を手にとると「それも否定できない」という気持ちになります。たしかに、難しい本が多すぎますね。でもそれは「表現が下手」ということではあっても、テツガクに価値がないとか、役に立たないということ

ではないはずです。

私は、テツガクに初めて出会った皆さんには「テツガクとは考えること」と説明しています。「それじゃあ説明になってない」「もっと詳しく」と言われば、「常識・慣習・権威・文化・伝統……にとらわれずに考えること」と説明します。これって意外に難しいことです。というか、日常ではほとんど不可能だと言ってもいい。私たちの考え方は、社会の常識・慣習……に気づかぬうちに染まってしまっているからです。ですからテツガクとは「常識・慣習……との闘い」だと言えなくもありません。

「そこまでして考えたくない」「めんどくさそう」と思う人もいるでしょう。でも本当に大切な問題に出会ったら、常識をそのまま自分の答えにすることで、あなたは満足できますか？ 本当に大切な問題について、一緒に考えていきましょう。

◆想定する進路

大学院進学、公務員（県市町村の役所の職員、警察官）、民間企業（金融、製造、情報通信、サービスなど）、高校教員

◆取得可能な資格

高等学校教諭1種免許状（公民）

◆教員一覧

遠藤 光男	教 授	認知心理学、視覚情報処理
島中 雄平	教 授	臨床心理学、児童精神医学、発達障害
田中 寛二	准教授	臨床心理学、加害者臨床、カウンセリング
伊藤 義徳	准教授	臨床心理学、認知行動療法、マインドフルネス
高良 美樹	准教授	社会心理学、アイデンティティ
加藤 潤三	准教授 (新任)	社会心理学、コミュニティ、地域住民 臨床心理学（予定）

◆伊藤義徳先生の個人研究



私が専門とする心理療法は認知行動療法です。そして、その効果をより高めるために、特に人の認知過程に注目した臨床心理学的研究を行っています。例えば、イヤな経験をして、早く忘れないのに、忘れようとすればするほど強く思い出されてきたことはありませんか？こうした効果は、「皮肉効果」と呼ばれます。残念ながら、人はどうしてもこれをなくせない仕組みになっていることが分かっています。それでは、どうしたらいいのでしょうか？その一つの方法は、忘れようという思いを「手放す」ことです。しかし、これは簡単なことではありません。うまくやるには心の筋力が必要です。最近「心の筋トレ」として注目されているのが「マインドフルネストレーニング」です。マインドフルネストレーニングは、うつ病や依存症の改善、職場ストレスの軽減、犯罪防止など様々な場面に役立てられています。

◆想定する進路

大学院進学、国家公務員（一般職、家庭裁判所調査官、法務教官、法務技官など）、地方公務員（一般職、心理判定員等）、民間企業（金融、製造、情報通信、サービス、大学事務など）、心理専門職【指定大学院修了後】（教育相談員、病院心理士、スクールカウンセラーなど）

◆取得可能な資格

高等学校教諭1種免許状（公民）

◆受験資格が得られるもの（予定）

公認心理師（卒業後に、実務経験、または、大学院進学が必要）



心理学実験の風景

◆教員一覧

安藤 由美	教 授	社会学（個人の人生、家族、社会の関わりの調査・研究）
白井 こころ	准教授	老年学（“幸福”と社会の健康への影響）
鈴木 規之	教 授	国際社会学（タイ・ラオス、沖縄のグローバル化）
鈴木 良	准教授	障害学（知的障害者の脱施設化と地域生活支援のあり方）
渡久山 清美	講 師	ジャーナリズム学（沖縄関連報道の調査・研究）
野入 直美	准教授	比較社会学（移動、境界、マイノリティ、共生）
比嘉 要	准教授	マス・コミュニケーション学（メディアの社会的影響）
水野 良也	教 授	社会福祉学（グループを活用した福祉的援助）
本村 真	教 授	社会福祉学（人を支援するための有効な方法）

◆本村真先生の個人研究



私は社会福祉分野における援助方法について研究しています。例えば、児童虐待等の被害にあった子ども達を含めて、支援を受ける人の「トラウマ記憶」をどのように理解する必要があるのかについてや、それを踏まえて具体的にどのような援助プロ

ランを立てていく事が有効なのか等についての研究です。また、支援者自身が健康であることも支援においては重要なので、支援者自身のストレスマネジメント法に関する研究も行っています。いずれの研究においても実践現場の職員と協同し、フィードバックを得ながら進めることで、実践現場で実際に役立つ研究を心がけていますし、そのような知識・スキルを大学の講義等を通して学生の皆さんに伝えています。

◆想定する進路

沖縄県やその他の官公庁（一般行政職や福祉職等）、沖縄県・市町村社会福祉協議会、病院、施設、沖縄県内銀行、県内外マスコミ、民間企業（航空会社など）

◆取得可能な資格

高等学校教諭1種免許状（公民）

◆受験資格が得られるもの

社会福祉士



福祉学合同ゼミの風景

琉球アジア文化学科

学科概要

1. 学科の教育理念・目的

【学科共通】 本学科では、琉球・沖縄、日本、朝鮮半島、中国・台湾を、歴史、民俗、言語、文学を通じて多角的に、総合的に学びます。これらの地域は歴史的にも、現在も相互に影響を及ぼしあっています。地域研究を中心としつつ、他地域とのつながりも研究しています。教育・研究を通して、資料(史料)・情報を収集する能力を身につけ、根拠ある主張を論理的に展開できる人材を育成したいと思っています。沖縄・琉球をはじめとする地域社会や文化を理解し、その継承発展に貢献したいと考えています。

【歴史・民俗学プログラム】 琉球・沖縄や日本、中国・台湾、朝鮮半島を中心とした地域の歴史・民俗学に関する研究をします。専門知識を深めていくなかで、地域社会と国際的な場で琉球・沖縄及び日本・アジアを積極的に発信する人材を育成することを目指しています。

【言語学プログラム】 琉球・沖縄や日本・中国・台湾・朝鮮半島を中心とした地域の言語学に関する研究をします。文化の基盤となる言葉の理解を通して、異なる文化背景を持つ人々とコミュニケーションする能力を身につけます。

【文学プログラム】 琉球・沖縄や日本・中国・台湾・朝鮮半島を中心とした地域の文学に関する研究をします。文化や文学を深く読み解くことを通して、異なる文化背景を持つ人々と平和的に共生していく能力の育成を目指しています。

2. 求める学生像

本学科では、次のような人に入学し、学んで欲しいと思っています。

- (1) 琉球・沖縄、日本、中国・台湾、朝鮮半島の言語、文学、文化、歴史、民俗などに強い関心と学習意欲をもっている人
- (2) こうした地域の違いと類似性に目を向けつつ、主体的・積極的に研究できる人
- (3) 社会・文化の発信や継承・発展に寄与することができる人

3. 育成する人材像

本学科は、琉球・沖縄、日本、中国・台湾、朝鮮半島の歴史・民俗、言語、文学に関する学問を教授します。そして教育・研究を通して以下の人材を育成することを目指しています。

- (1) 資料(史料)・情報を収集する能力を身につけた人材
- (2) 資料(史料)や情報の整理・分析を通して、根拠にもとづいた主張を展開できる人材
- (3) 成果をまとめ、論理的で説得力のある説明ができる人材
- (4) 他者との意見交換を通して、多様な見解や価値観を受け入れ、柔軟に修正・改善する姿勢を持つ人材

留学について

国際言語文化学科 琉球アジア文化専攻 真謝 明莉

私は、中国の延辺朝鮮族自治州にある延辺大学で約10ヶ月間、交換留学生として中国語を学んできました。延辺には漢民族だけでなく、少数民族である朝鮮族が多く生活しているため、街中は漢字とハングルの2つの文字が使用されています。そのような環境の中で留学し、語学習得だけではなく、日本では経験できないことをたくさん経験することができました。大学生活では今でも「経験すること」を大切にし、日本語教師の実習、スピーチコンテスト等に積極的に参加し、様々なことにチャレンジしながら有意義な大学生活を送っています。

想定する進路

公務員、大学院進学、マスコミ、出版社、金融業・保険業、生活関連サービス業、郵便業、宿泊業、製造業、情報通信業、教育・学習支援業

取得可能な資格・免許

免許：中学校教諭1種免許(国語)、高等学校教諭1種免許(国語)

資格：博物館学芸員

歴史・民俗学プログラム

◆教員一覧

豊見山 和行	教 授	琉球史
赤嶺 守	教 授	東アジア史 中琉関係史
赤嶺 政信	教 授	琉球民俗学
大瀬 郁子	准教授	沖縄近現代史



那覇大綱挽



首里城

◆豊見山和行先生の個人研究



琉球史の研究は、おもに空間的にはトカラ列島から与那国島までを、時間的には琉球国が成立した14世紀頃

から王国が解体された19世紀頃までを対象としています。もちろん、歴史と現在はつながっていますから、これらの空間や時間に縛られる必要はありません。あくまで、琉球／沖縄とは何か、を深く掘り下げるために琉球史という方法があると私は考えています。ゼミや野外調査などで自由に琉球史を研究・討論し、実感の伴った琉球史の多様なテーマをいっしょに追究してみませんか。



首里の石畳

言語学プログラム

◆教員一覧

- 教員未定 琉球語学(2018年4月採用予定)
村上 三寿 教授 日本語学
石崎 博志 准教授 中国語学・中国語史
金城 ひろみ 准教授 中国語学・中国語教育学



上海万博中国館

◆金城ひろみ先生の個人研究



「随縁」という言葉があるように、あらゆる出来事はその過程で、かけがえのない「縁」によって成り立っています。

私自身、大学時代に中国語を学んだことで、良い師や仲間、学問に巡り会うことができました。

私の専門である「中国語学」とは、音声・語彙・文法等の面から中国語の本質に迫る学問です。当学科では、他の言語や、文学・歴史民俗の多角的な視点を採り入れつつ、研究することができます。またフィールドワ

ークや海外文化研修、交換留学に参加し、積極的にチャンスをつかみ取る学生が多いことも本学科の大きな特徴です。

みなさんも琉球・日本・アジアの学問に向き合い、で自分にとっての「縁」を見つけてみませんか。



海外研修

文学プログラム

◆教員一覧

- 大胡 太郎 教授 日本古典文学
新城 郁夫 教授 日本近代文学・近代沖縄文学
前城 淳子 准教授 琉球文学
平良 妙子 准教授 中国古典文学・琉球漢詩文
吳 世宗 准教授 朝鮮文学・在日朝鮮人文学



卒業パーティ

◆吳世宗先生の個人研究

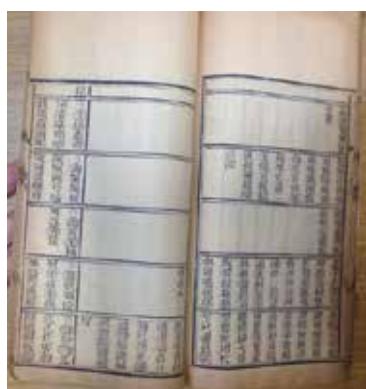


私は「在日朝鮮人文学」と呼ばれる文学作品を研究しています。

「在日朝鮮人文学」とは、日本の植民地

政策のために日本で暮らすようになった人々による、主に日本語で書かれた文学作品を指します。例えば金時鐘『原野の詩』や、英語に翻訳されればノーベル文学賞を受賞すると言われる金石範『火山島』などです。各作品がいかなる歴史的背景を前提にしているのか、そしてその日本語

表現の特徴は何かなどを問い合わせながら研究しています。現在は戦争、植民地という観点から在日朝鮮人文学を沖縄文学、済州文学と比較することに関心があります。



写本



キャンパスの桜

Life on Campus

大学にはどのような行事がありますか？

琉球大学の1年間は、2つの学期から成り立っています。前学期では4月1日から9月30日まで、後学期は10月1日から3月31日までです。前学期、後学期ともに授業は15週で行われ、その後、補講期間、試験期間となります。

新入生のために、入学式前後にそれぞれの学科等ごとのオリエンテーションがあり、教員からは学生生活全般に対する助言や科目履修等に関する説明があり、在学生からも様々なアドバイスがなされます。

オリエンテーションの後は、仮登録期間となり、各授業を受けて、履修する科目を選択し、自分の時間割を作成することとなります。

前学期が終了すると夏季休暇となり、琉大祭を経て、後学期に入ります。年末年始の冬期休暇を挟み、後学期終了後には春期休業に入ります。

毎年、春または秋には各学年の各プログラムごとに年次懇談会があり、1年次と3年次が合同で離島などで行う「1・3研修」もあります。

●2017年度 年間スケジュール

4月1日	学年及び前学期開始
4月3日～6日	新入生オリエンテーション
4月3日～6日	前学期仮登録
4月4日	入学式
4月10日	前学期授業開始
5月22日	開學記念日
6月23日	慰靈の日(休講)
7月15日	オープンキャンパス
7月31日～8月4日	前学期試験期間
8月11日～9月30日	夏季休業
9月23日～24日	琉大祭
9月25日～27日	後学期仮登録
10月1日	後学期開始
10月2日	後学期授業開始
12月6日	推薦入試(休講)
12月23日～1月4日	冬季休業
1月13日～14日	大学入試センター試験
2月5日～9日	後学期試験期間
2月17日～3月31日	春季休業
2月25日～26日	入学者選抜第二次試験(前期日程)
3月12日～13日	入学者選抜第二次試験(後期日程)
3月20日	卒業式
3月31日	学年及び後学期終了



■学費(平成29年度)

入学料 282,000円
授業料 535,800円(年額) / 267,900円(半期)
入学試験検定料 17,000円



■入学料免除制度、授業料免除制度

【入学料免除制度】

本学に入学する者で、下記のいずれかに該当すると認められた場合、入学料の全額または半額が免除されます(要申請)。
※一定期間、入学料の徴収を猶予する制度もあります。

- ①経済的にきわめて厳しい状況にあり、入学料の納入が著しく困難である者。
- ②学資負担者が1年以内に死亡し、入学料の納入が著しく困難である者。
- ③風水害の災害を受けたことにより、入学料の納入が著しく困難である者。

【授業料免除制度】

経済的な理由から授業料の納付が困難となり、学業優秀と認められた場合、年間授業料の全額または半額が免除されます(要申請)。
※授業料を一旦納付した場合、免除申請はできません。
また、人物および学業成績等が特に優秀であると認められた学生に向けて、年間授業料の全額または半額を免除する「学業成績(学術研究)優秀者制度」もあります。



■奨学金

1. 日本学生支援機構奨学金

日本学生支援機構は、日本学生支援機構法に基づいて設立された国の育英奨学事業を行っている独立行政法人で、全国的規模で奨学生を採用しています。下記の第一種(無利息)、第二種(利息付)奨学金を併せて、「入学時特別増額貸与」を申請することも可能です。なお、方奨学生は、貸与終了後6ヶ月経過したときから約20年以内に割賦の方により返還しなければなりません。

●学部学生入学者の貸与月額

	貸与月額	
	自宅通学	自宅外通学
第一種奨学金 (無利子)	45,000円	51,000円
第二種奨学金 (有利子)	30,000円	3万円、5万円、8万円、10万円、12万円から選択

日本学生支援機構ホームページ奨学金情報
<http://www.jasso.go.jp/shogakukin/index.html>



■1ヶ月の生活費

生活費を食費、住居費などに分けてみると、県外や県内遠隔地の出身者の場合、食費に月1~3万円、住居費に月3~5万円ほどかかっています。娯楽や交際費などにどれだけ支出するかによって異なりますが、他の費用と合わせると月5~10万円を生活費としている学生が多いようです。

一方、自宅から通学する生徒の場合、学生にもありますが、ガソリン代やバス代などの交通費に月5千円~2万円を支出している学生が多いようです。

なお、アパートに住む場合、本学全体では家賃月3~5万円に住む学生が最も多いようです。

[学生の一例]

※あくまでも一例であり、学年や生活スタイル等によって異なります。

Aさん 3年次／本島南部／自宅／女性

アルバイト無し、日本学生支援機構：4万3千円

食費：月1万円、ガソリン代：月2万円、その他：月5万円

Bさん 2年次／本島北部／アパート／男性

塾講師：月5千円、奨学金無し、食費：月1万2千円

住居費：月4万円、その他：月5千円

Cさん 4年次／県外／アパート／女性

アルバイト無し、第一種奨学金：5万円、食費：月3万円

住居費：月5万1千円、その他：2万円

Dさん 4年次／県内離島／学生寮／女性

アルバイト(コンビニ)：月5万円、奨学金無し、食費：月2万5千円

寮費(光熱費を含む)：月2万円、その他：月2万円

■交通手段

大学への交通手段としては、自動車、バス(高速バスを含む)、自動車で通学しており、約3千台を収容できる駐車場があります。(駐車場の利用には、入構許可証の発行が必要です。)



■奨学金

2. 琉球大学後援財団奨学金

琉球大学後援財団では、学生の奨学及び若手研究者の育成を目的として、次のような奨学事業を行っています。

①金秀青少年育成財団奨学金

琉球大学に在籍する成績優秀な学生に奨学金を支給します。

②名城嗣明奨学金

琉球大学の学生で心理学に携わる学生、留学する学生、海外から留学している学生、国際交流に貢献している学生に奨学金を支給します。

■学生寮

千原寮は本学キャンパスの宜野湾口(北口)近くにあり、鉄筋コンクリート5階建ての8棟からなる建物です。新混住型棟に分かれ、さらに一般棟はA、B、Cのブロックに分かれています。A、B、Cブロックの各階を1ユニットとして、共同生活を行います。

寄宿料(一般棟:月額4,300円、混住型棟:月額4,700円、新混住型棟:15,000円程度)、維持費(一般棟:月額4,400円、混住型棟:月額8,400円、新混住型棟:4,000円程度)、水道料、燃料費及び電気料を合わせて一般棟は月額10,000円~15,000円程度、混住型棟は月額15,000円~20,000円程度、新混住型棟は月額25,000円~30,000円になります。千原寮駐車場貸与を受けている場合は、寄宿料と合わせて、月額1,000円が加算されます。

交通案内

空港 ▶ 琉球大学

■ 高速バス (1時間に1~2本程度／所要時間:40分)

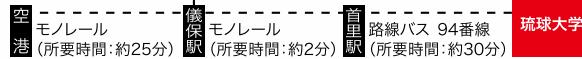
111番線(琉球バス・沖縄バス・那覇バス・東陽バスの4社が交互運転)

113番線123番線(琉球バス) 案 空港→沖縄自動車道→琉大入口下車

路(琉大入口にて下車、琉大北口経由徒歩で約15分)

■ モノレール

路線バス(97番線 所要時間:約40分)



モノレール首里駅 ▶ 琉球大学

■ 路線バス

首里駅前→汀良三丁目→城東小学校前→石嶺二丁目→棚原→
琉大北口方面 94番線 案 琦玉ト教短大入口→琉大附属病院前→琉大附属小学校→
琉球大学法文学部前(下車、徒歩1分)

バスターミナル ▶ 琉球大学

■ 路線バス

(各20~40分に1本程度／所要時間: 97番→約60分 98番→約50分)

琉大東・北口方面 97番線 案 バスターミナル→国際通り(牧志)→儀保(首里)→
琉大付属病院→琉大東口(下車、徒歩5分)

琉大北口方面 98番線 案 バスターミナル→国際通り(牧志)→バイパス→
真栄原→沖国大前→琉大北口(終点下車、徒歩12分)



「人文社会学部」に関するお問合せ

法文学部・観光産業科学部 学務担当 ☎ 903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地 TEL(098)895-8184 FAX(098)895-8187

「人文社会学部」に関する最新情報は、琉球大学法文学部のホームページ (<http://www.ll.u-ryukyu.ac.jp/>) でご確認ください。

